

## 教育・環境委員会の取組

### (1) 活動計画

#### ①研究テーマ

「子どもとともに大人も学び合い

心豊かな共育を目指して」

～子どものために、大人がどう行動するか～

#### ②研究の視点

本委員会は、今日的な教育課題やP T A活動に関わる問題点等のうち、子どもの教育、生活・教育環境等に関することをテーマとして研究・協議し、全道の研究や実践の指針を提供することをねらいとしている。

子どもの健やかな成長のためには、大人の立場から子どもを取り巻く環境を見取り、その課題を把握し、大人が手をつないで解決に向けた具体的な取組の推進に努力していくことが重要であり、下記の研究内容について研究・協議を進めていく。

##### ア 研究内容1 子どもの教育活動

###### a 生活習慣の改善を目指す活動

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進
- ・生活リズムの確立
- ・あいさつ運動の推進

###### b 心を育てる活動

- ・自然や社会での体験活動
- ・家庭や地域での活動
- ・たくましい心を育む活動

##### イ 研究内容2 大人の環境整備活動

###### a 安心安全な地域づくり

###### b 子どもを守り育てるための研修

###### c 子どもへの働きかけ

### (2) 研究の内容

#### ①前年度までの取組

平成30年度に前テーマから10年という節目を迎え、新たなテーマ「子どもとともに 大人も学び合い 心豊かな共育を目指して」を設定した。

平成30年度旭川大会研究大会では、スマホ・ネット利用について講師による講話と釧路市P T A連合会から提言発表をしていただき、活発な研究協議、意見交流が行われた。

委員会では令和2年度函館大会に向けて、研究内容1「子どもの教育活動」を重点に設定し、提言に向けた研究協議を進めてきた。

令和元年度は、次年度より小学校で全面実施される新学習指導要領に基づく教育も視野に入れ、「親の学びは子の学びの充実につながる」ことを共通認識し、「未来を生きる子どもたちに求められる力を育む家庭教育」について、各地区での研究活動の交流や新たな時代の教育について研究や交流を深めてきた。

令和2年度の日P北海道ブロック研究大会函館大会は、「大人の学校～夢・未来を拓く子どもたちのために 何をしなければならないか」について研究活動を行ってきた上川南部地区の富良野市P T A連合会に提言を行っていただく予定であったが、2年連続で大会が中止となったため、発表の場を設定できなかった。

昨年度は、オンラインによる研究会の実践を多くの地区で行っていることをうけ、「コロナ禍においても行うことができるP T A活動」についての交流を行った。特に、「親の学び」を念頭においた交流や協議は一定の成果を得ることができた。

#### ②今年度の具体的な活動

昨年度は、今年度の日P北海道ブロック研究大会オホーツク北見大会の提言発表に向けて、重点的に研究を進めた。研究内容は「2 大人の環境整備活動」であり、コロナ禍における各地区・各単Pの取組を集約した。コロナ禍でも実践可能な「大人の学び」についての活動を通して、各地区で模索している活動を発表できるよう選定を進めた結果、研究主題を「新たな挑戦～未来へ向かう多様な学びをハイブリッドで～」と定めて研究を進めてきた帯広市P T A連合会を推薦するに至った。各地区においてもコロナ禍における工夫した実践があることから、帯広市P連の発表を後押しするような取組例を収集・整理し、オホーツク北見大会提言発表の糧とする。

ア 研究内容1「子どもの教育活動」に関わって

- a 令和6年度提言に向けた重点検討・具体の決定
- b 令和6年度提言に向けた事例収集等

イ 研究内容2[大人の環境整備]に関わって

- a 令和4年度オホーツク北見大会の分科

会提言発表に向けた準備（①安心安全な地域づくり②子どもを守り育てるための研修③子どもへの働きかけ）

b 令和4年度の提言発表と反省

ウ 各地区の実践交流や研究大会の報告を行い、研究集録の作成を進める。

a 北見大会の提言発表を基軸に、各地区PTA活動における実践交流を進める。

b 各地区PTAの研究・研修活動の充実に資する交流を行う。

### (3) 成果と課題

#### ①成果

ア 令和4年度日P北海道ブロック研究大会

日P北海道ブロック研究大会が2年にわたり中止を余儀なくされ、交流や発表の場を失っていたが、今年度はオホーツク北見大会を開催することができた。「Well-being ～夢・未来を拓く子どもたちの幸せのために～」という未来志向の大会スローガンのもと、5つの分科会、2つの特別分科会はオンライン配信、オンデマンド形式で、全体会と記念講演会は当日限定公開・限定配信で行うことができた。分科会の配信については一定の期間が設けられ、視聴する側への細やかな配慮がなされていた。分科会の提言内容については、「PTAとコミュニティ・スクールに関すること」「コロナ禍におけるPTA活動のあり方」「子どもの未来づくり」「食育」と、現代的なPTA活動の課題を捉えた充実したものとなった。また、開催要項等が大会専用サイトからダウンロードでき、広く頒布できる環境となっていた。

イ 令和6年度日P北海道ブロック研究大会における提言に向けた事例収集について、令和4年度の提言は「研究内容2 大人の環境整備活動」を研究の対象にすることとし、コロナ禍における各地区・各単Pの取組を集約することを継続して行った。

市町村や組織の規模等によってPTA活動のあり方は様々なので、今年度については具体的な方向付けをせず、色々な地域の事例を吸い上げることに徹した。

各地区の事例報告をもとに、次年度、具体的な提言内容を選定する。

ウ 各地区PTAの実践交流について

各地区の研究大会や研修会、実践に関する報告をもとに、取組内容や成果・課題等について委員会で交流した。各地区の実情に応じた実践や、他の地域でもとりいれられる内容等多岐にわたる交流となり、非常に有意義なものとなった。具体的には、子どもの居場所づくりに関すること、PTAの組織に関すること、コミュニティ・スクールとの活動のすみ分けや連携、家庭のルールづくりや家庭教育のあり方、子どものコミュニケーション能力に関すること等、PTA活動や子育てにおける今日的課題を示唆する内容となった。コロナ禍におけるPTA活動のあり方に加え、子どもの健やかな成長を支えるために、大人がどう関与するかという、活動の原点に立ち返る交流が大切であることが確認された。

#### ②課題

本委員会においても感染状況を考えながら話し合いをもち、PTA活動を前に進めるように取り組んできた。会議に参集できない委員はオンラインで参加するなどの工夫を行った。ただ、実際に会って顔を見ながら議論することが、今後の協議のさらなる向上につながるの確認もなされた。委員同士がよく知り合い、忌憚のない意見を交わし合うことが、北海道におけるPTA活動の将来をかたちづくる第一歩となるだろう。

### (4) 次年度の方向性

研究テーマと研究の視点に照らし、令和6年度日P北海道ブロック研究大会千歳大会の提言発表にむけて、提言地区及び提言内容の選定と推薦を行っていく。コロナ禍が続き、十分な活動ができなかった地区も多くあるという報告を受けている。その一方、アイデアを出し合い工夫しながら、安心と安全に配慮して活動を推進している例もある。このような時だからこそ、PTA活動本来の目的や原点に立ち返り、活動の好事例を全道で紹介していきたい。